

小城公園は小城藩初代藩主鍋島元茂公・2代目直能公の時代にかけてつくられた名庭園です。明治8年、佐賀県で最初の公園に指定されました。「さくら名所百選」「日本の歴史公園百選」にも選ばれています。

1 大角榎 (おおかくまき)

佐賀の銘木100選にも入る樹齢約350年の犬榎の古木。正方形に刈り込まれたその大きさは30畳にも及びます。この一帯は江戸時代、「浜の茶屋」があり小城藩主の別邸がありました。

2 ホタル川

小城市で一番早く蛍が飛ぶところ。この一帯は紅葉谷として江戸時代からの景勝地です。

3 春雨の碑 (はるさめのひ)

日本の端唄の代表作「春雨」を作詞した小城鍋島藩士・柴田花守は、1809年小城町中町に生まれた国学者でもありました。長崎丸山の史跡料亭「花月」で作詞したのが縁で、毎年4月に「春雨まつり」が催され、長崎検番の芸妓さんが艶やかな舞を披露します。

4 烏森稲荷神社 (からすもりいなりにんじや)

江戸屋敷にあった烏森稲荷を遷宮し、宮島武蔵によって勧請されました。その後、1785年稲荷屋敷(現在の小城高校北東)に移されたが、明治11年再び現所在地に戻りました。

5 茶筌塚 (ちゃせんづか)

小城は昔から「茶道」でも有名な所でした。茶道は初代藩主・元茂から始まり、この茶筌塚は大正9年に弟子達によって建てられ、有楽流の使用済み茶筌が埋められています。

6 後西院御製碑 (ごさいいんぎよせいひ)

小城の桜の美しさは朝廷にも届き、桜を称える御製(天皇のつくった詩や和歌)を賜りました。

さくら花に まる岡辺の 松の葉は
いつとなきも 色を添えつつ

7 甲戌烈士の碑 (こうじゅうつれっしのひ)

亀の上に乗っているのが「亀の碑」とも呼ばれています。甲戌は干支で明治7年を指します。この年の「佐賀の乱」に参加して戦死した小城藩士13名を祀ったものです。碑名は中林梧竹の見事な篆書です。

小城公園散策



8 中林梧竹の退筆塚 (なかばやしごちくのたいひつづか)

中林梧竹は1827年小城町本町に生まれました。興讓館に学び江戸で勉強を重ね、その後興讓館の教授になりました。明治になってから書道に専念し、中国に渡り研究を続けました。「梧竹退筆塚」の題字は11代藩主・直虎が書きました。横石に「信哉」(87歳翁梧竹)の文字が光っています。

9 10 11 岡花の歌碑

初代小城藩主鍋島元茂が植樹し、2代直能が増植した桜の花の見事さは、朝廷にまで聞こえるようになりました。延宝三(1675)年には、後西院の御製歌や、18名の公卿から御詠歌を賜りました。直能は自身の歌一首を加え、道見法親王から頂いた跋文(添え書き)とともに「八重一重」(別名「海外飛香」と名付けた和歌集をつくりました。ここにある三基の歌碑には18名の公卿のほか直能が岡花を詠んだ和歌や道見法親王の跋文が彫られています。歌碑の文字は中林梧竹の筆によるものです。

12 玉成社・武正社 (ぎよくせいしゃ・ぶせいしゃ)

1654年、2代藩主・直能が「玉成集」という柳生新陰流の極意書を伝授されたので、玉成社として柳生宗矩を祀ったものです。小城藩と新陰流の関わりは初代藩主・元茂にはじまり、元茂は免許皆伝の腕前、玉成社として祀られるのは1794年頃の8代藩主・直知の時代からです。武正社は柳生十兵衛を祀ったものです。

13 岡山神社 (おかやまじんじや)

1789年2月、7代藩主・直愈が建立。小城初代藩主・元茂と2代藩主・直能を祀っています。境内には1654年・元茂が死去した時、追腹をした10名の藩士を弔って、明治23年「松鐵祠」が建てられました。また、磁器製の染付灯籠があり中央には「小城杏葉紋」が彫られています。

14 岡山神社第一の鳥居 (おかやまじんじやだいいちとりい)

明治21年4月に建てられた肥前鳥居。久米邦武撰文の文字は、中林梧竹書の書です。「岡山神門銘」の5文字だけは佐賀本藩出身の著名な歴史学者である久米邦武の書とされています。

15 心字池 (しんじいけ)

「心」の字をかたどった池。桜の後には、色とりどりのツツジを楽しめます。